

令和4年度 秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 第2回学校評議員会・学校関係者会議録

- 1 日 時 令和5年2月9日(木) 15:45～17:10
- 2 会 場 会議室
- 3 参加者(敬称略)

学校評議員	根 岸 均(元秋田県教育長)		
〃	谷 口 敏 広(元横手清陵学院中学校・高等学校長)		
〃	鈴 木 弘 志(本校同窓会長)		
〃	小 川 晴 資(食事処「じいじ亭」代表取締役)		
〃	眞 壁 賢 治(元本校 後援会理事)		
高PTA会長	金 沢 直 樹		
中PTA会長	木 村 忍		
校 長	高 久 英 夫	高 教 頭	山 本 佳 広
中 教 頭	久 村 孝	主幹兼事務長	門 脇 郁 子
高 総務主任	亀 沢 貴 子	高 教務主任	進 藤 洋 一
中 教務主任	長 沢 留美子	高生徒指導主事	福 田 則 彦
高進路指導主事	泉 田 健	特別活動主任	阿 部 大 樹
研究・研修主任	佐々木 信 吾	探究・国際主任	須 田 宏
欠席者(敬称略)			
総合技術科長	五十嵐 宏 秀		

協議・提言「学校評価の結果を踏まえた本校の充実と発展について」

[高教頭]

今年度も保護者の皆様からアンケートを実施し、教職員についても自己評価を実施した。その概要について中学校教頭より説明する。

[中教頭]

保護者アンケート・教職員自己評価結果概要説明(中教頭)[資料15～34ページ]

こちらの内容は1月30日の職員会議で職員にも情報を共有している。保護者アンケートについて、回答率は中学校69%、高校40%である。昨年度は中学校74%、高校55%で、今回は回答した家庭が少なかったと思う。紙で案内をしてスマホやパソコンで回答をしようとしたが、少し宣伝不足であったかと思う。紙で案内を出したうえに一斉メール等で伝えれば回答率が上がったかと思う。アンケートの内容質問項目は28項目になる。肯定的な回答「そう思う」「どちらかというと思う」という割合は、中学校78%、高校69%であった。昨年度は中学校74%、高校68%で中高ともに若干向上が見られた。今年度の本校の教育活動全般に対して概ね理解していただいていると思う。

教職員の自己評価について、回答率は77%である。内容については「主体性、探究力の育成」「人間力の育成」「高い志の育成」「教職員間の連携、保護者・地域との連携」の4つの領域で併せて51の質問をしている。その中で「良い」「やや良い」「やや悪い」「改善を要する」の4段階で評価している。4つの全ての領域が3ポイント以上の取得で、8月の教職員の自己評価と比較しても向上が見ら

れた。これらのことから今年度もコロナ対応で様々な制限があったが、中高の教職員が協力して様々なアイデアを話し合い工夫しながら教育活動を進めてきた成果が結果としてあらわれたと思う。また、地域や保護者への情報発信の面でも普段の学年部報、学級通信、ホームページにも力を入れ更新等をまめに行いそれが成果につながった。一方課題としては、保護者アンケートから子供たちの挨拶、服装、言葉遣い等生活習慣に係わる部分が昨年度より5ポイント以上減少しているのが気になる。それが指導している教師に対してあまり浸透されていない。保護者の自由記述では本校の魅力や良さについて書いていただいた。これらのご意見や要望についてこの後課題にして取り組んでいきたい。

また教職員の自己評価の課題について、学習習慣の確立に向けた継続的な支援や6年間を見通した効果的な学習計画、カリキュラム編成、主担当に任せきりにしない等について3ポイント以上を目指したい。今後改善に向け、各分掌に様々な課題を振り分けるようにする。提案するのは誰か、実施するのは誰なのか等2回の分掌会議を開きそれを2月の職員会議で報告をする。そして今年度の学校評価の反省が必ず次年度につながるような反省の仕方にしていきたい。この後はホームページでこれらのグラフや保護者記述への回答について掲載する。中学校に関しては来週PTAがあるのでそこで報告をする。

・保護者アンケートと教職員の自己評価についての質問・意見

[評価者A]

警察官や小さな子供のいろんな事件が起きているこのような世の中でありながら、「いじめを受けた場合信頼して相談できる人がいますか」の質問に対し、「いる」が94.5%とすごく高く、誰に相談できるかでは教職員が50%近くということですのですごい学校だと思う。またテストの成績以外にいつも親身になって相談に乗ってくれているという。先生方も堅い仕事なのでストレスを抱えているし、保護者のこの学校に対する評価も高くその期待に応えていける職員の皆様はすごいと思う。

[評価者B]

アンケートの感想ですが、令和2年度から4年度までの3年間を比較してみると、中学校では2年と3年度の間が10.3ポイント 高校では10.1ポイントの低下、中学校の3年と4年度の間では4.6ポイント高校では16.1ポイントが低下している。この3年間で中学校が14.9ポイント高校が25.2ポイント下がっている。アンケートの配付方法もあるが、渡された用紙が親に渡らない時がある。大事な行事や用意する準備物などがある時に事前に連絡網メールで教えてくれたらと思うことがある。中学生では甘えもあるのかもしれないが、これを機会にやり方を変えて集計率を上げていくのか、どのような方向性を持っていくのかを聞きたい。

[中教頭]

昨年はペーパーで案内を出し、そして一斉メールを出した。今回はそのようにはしなかった。昨年は入力できなければ、紙でもいいとした。紙の量も昨年より少なく実際届いているのかと心配もした。今回一斉メールでアンケートのお願いの案内を出したことを伝えればよかったという反省がある。またアンケートの自由記述を見て親でなく子どもが親の携帯から入力したのでないかと思えるところがあり余計な心配もした。来年度はアンケートの案内を出したことを確実に伝えたい。

[評価者B]

来年はいくらか数値が上がるような方向でお願いをする。あと教職員の自己評価について自己評価点の一部の項目で徐々に低下あるいは横ばいしているところが見られるが、一般的に各項目のポイント数が上昇してきている状況にある。重点目標を常に意識すると共に目的意識と問題意識を持って取り組んでいることが非常によくわかる。教職員の自己評価の自由記述で、全職員の共通の指導計画の提案、生徒本人の進路意識を高め自主性を高める指導が必要、職員数が減ってきているので行事や講

演会等の精選を行うべき等なるほどと思われる改善方策が提案されている。こういう改善方策が教職員全員の共通の考え方としてうまくいけるものなのか。それはその人の考え方で他の人は全然違うのか。全体の先生方のこれらの問題の考え方進む方向性としてまとまっていくのか。あと分掌反省や年間行事予定の決定について手順や方法を改善すべきとあるが、詳しく教えてもらいたい。

[中教頭]

分掌ごとに先生方が分かれて集まりその年度にやるべき仕事を振り返る反省会議があり、その他に学校評価も加えて関係する課題を分掌内で扱って話し合いをする。今年度は更に次年度につながるように会議を設定している。それぞれの意見を聞きながらの会議となる。来年度の教職員の職務分担をどのようにするかは管理職の考えになる。この自由記述に関しては載せてもらってよかったという先生もいる。自分のこういう思いをみんなに知ってもらえればいい。結論は特に求めなくてもこういう考えもあることを伝えたいと言っていた。

学校評価結果を踏まえた協議・提言

[評価者D]

授業参観ではそれぞれの教室で電子黒板等を活用されICTが浸透していると感じた。また、各分掌の説明で部活動や進学等多くの面で成果がなされているのが見られた。これは先生方の日頃の指導の賜物、成果である。生徒は少子化で人数は減ってきている。今年の入試倍率でも1を超えているのはほとんどない。こういう状況の中で本校を希望すること自体が存在意義である。自由に入れる状況の中で本校を目指した。そうした子供たちをどう指導して伸ばしていくかが大事になるし大切にしてもらいたい。中高一貫のシステムが特色であり様々な効果がある。デメリットも若干あるがメリットの方が上回ると思う。これまで培ってきたスタイルとして、スキルアップタイムを有効活用して総合技術科の資格取得や普通科の受験科目に力を注ぐ等やってきている。増単や放課後指導を授業の中でできる仕組みは他校にはない。これをどう生かすか問われる。資格取得の面ではそれを武器に行きたい企業や大学に行ける。私が在職していた当時のデータではジュニアマイスター顕彰を持っている比率が東北ではトップであった。今も上位であると思う。もう一つ大事なところは明確な使い方をしている探究活動で、この二つの特色を活かせれば単なる学力だけでなく他校より別の力を身に付けさせていける。在職中のエピソードで、資格取得の指導で生徒たちは初め資格取得を軽んじて見ていたが、放課後全員に取らせるよう合格ラインをあげながら繰り返し過去問補習を行った。遅い時間にもなったが残った生徒も向かう態度雰囲気は段々変わっていった。本当に向き合えば人間とは変わる、そういう経験をした。本校の特色を活かした形の指導をすれば、たとえ生徒の数が少なくても素晴らしい教育ができると思うので、これからも先生方の希望を深く持ちながらの尽力を願う。

[評価者C]

校長から本校のプライドや存在意義を今見直すことが重要であるとの話があったが、全体的に量的な減少が質的な低下と直結しないように発展させお互い工夫しなければいけない時期であり、そういう視点で授業を見ていた。横から生徒の表情を見ていて、集中していい雰囲気を感じた。中学生は言えば反応が返ってくるし高校生も集中して見ていた。いい条件下で運営されている。タブレットを使用していたが、それが本末転倒にならず何かのためにする存在意義に直結するような活用をしている。いい情報発信を引き続きお願いする。英語の授業でTTが2人付いていたが展開の仕方で他校の先頭を切るような形を提言していつてもらいたい。数クラスか前の授業の黒板消しがきちんとされないうで次の授業が始まっていた。またトイレの小便器が少し汚かったのできれいにしよう配慮願う。

[評価者E]

私の子供は日産自動車に務めているが、日産と本田はEVに関しての人材を集めているとの事である。よって電気科の生徒が欲しいという話をしている。ただトヨタに関してはEVに行かないだろうとのことだが、EV関係の人を集めだしたという。

[評価者B]

保護者の意見や自由記述の文章につながった形で学校生活を送られる取組をお願いする。また先生方の自己評価の自由記述や点数の付け方に関して、記入する者そして評価表を見る方もお互い理解し合えるような方向性に持っていただきたい。もう一つ進路の関係で、今年の県内就職で横手と湯沢の建設関係に就職した生徒が出て喜ばしい。同窓会としても先輩達もいっぱいいるので同窓会のつながりを非常に楽しみにしている。

[評価者F]

保護者からの声がいろいろと届くので情報共有としてお話したい。今年中学校受験が行われた時にコロナにかかった6年生の親御さんから、「入試の追試験がないのか、せっかく清陵の中学校に入りたいのに追試験がないので入れなかった。」と連絡が来た。そう言われ県のホームページを見たところ全県の公立中学は当日コロナになった者はできないと書かれていた。来年はまた違う形にはなると思うが、せっかく入りたい子供さんがいるのに子供が少ないと言われる中でもしょうがなく他の中学校に行かざるをえなかったという。あと、最近図書館の開放がされていないという。学校司書がないので、勉強等したくて行っても開放されていない。生徒がわざわざ他の所まで行くがどこもいっぱいである。本来であれば図書館で自由な時間に行って勉強できるのに開いていないという。今後も学校司書の配置の話はないとのことだが、なんとか図書館の開放をして子供達が勉強できる場所づくりをお願いする。あと2点、高校3年生ですが推薦入学等で進路が早く決定しているのにも関わらず共通テストを絶対受けなければいけないという。ある大学はその共通テストでクラス分けを行う所もあるそうだが、総技は全員に受けさせることはないようだが、普通科に関しても柔軟な対応をお願いする。自動車学校に行っても免許を取るとかアパートを探すとか家庭の都合もある。本当に共通テストを受けなければならない生徒と、もう受かっている生徒との温度差も非常にある。アンケートの中にもこのことが書かれているので今後検討してもらいたい。最後に指定校推薦について、情報共有の仕方をもう一度お願いする。あと、タブレットの授業等でのICT活用について全県でも情報交換しているが、宮城県や岩手県はもっと先を行っている話を聞く。秋田県だけでなく東北の情報も共有しながら進めてもらいたい。

[評価者G]

中学校の入学者の学校の内訳をみると、市内の小学校でも入学者の少ない学校がある。どうしても学区の中学校へ自然と進んでしまう。生徒人数が多い小学校にはもっとアピールしてもらいたい。また保護者アンケートにもあるが、中学1年生のうちから卒業生で実際やっている先輩方が来て進路先のいろんな話をしてもらえれば、高校の進路に向けて普通科へ行こうか総合技術科へ行こうか具体的なイメージができると思うのでそのような機会を設けていければと思う。

[高教頭]

本日はたくさんの貴重な意見をいただきありがとうございました。今後職員で共有しながら改善・検討を図りたい。

[校長挨拶]

本校は非常に多岐にわたった活動をしている学校で、一年間を振り返った時、全職員で全ての活動を振り返ることはなかなか難しいことだと痛感している。今年、今回の保護者アンケートや職員から出た意見を各分掌に降ろして具体的に話し合ってもらう場を作ることにした。去年も大変いいアイデアが職員から出たが、誰がやるのかがはっきりしていなかったために、今年に活動に十分反映できなかったという反省がある。今回は各分掌に関係あることを話し合ったうえで、次にいつ、誰がやるかというところまでを考えている。各方面から出た知恵を例年以上に反映して来年に生かしたい。今日は貴重な意見ありがとうございました。この後もよろしくお願ひしたい。